

令和6年度
自己評価報告書

岡山自動車大学校

1 学校の教育理念、校訓

自律創生・信念貫徹・共存共栄

2 具体的な教育目標、スローガン、育成人材像

①具体的な教育目標・方針

- ・自動車整備士国家試験一級小型、二級ガソリン・ジーゼル三種目の100%合格
- ・関連業界への100%就職
- ・時代・企業ニーズへの対応
- ・各種関連資格取得
- ・基礎学力の修得・補填
- ・基礎的な生活習慣・社会常識・マナー・規範教育の徹底
- ・国際感覚の涵養
- ・学生一人一人の個性・能力に適合したきめ細やかな指導

②具体的なスローガン

- ・学生満足度の向上・保護者信頼度の向上

③具体的な育成人材像

- ・マネジメントも出来るコミュニケーション能力・人間性を兼ね備えた真の整備士の育成
- ・将来の企業幹部候補
- ・時代の変化に対応できる自動車整備士の育成
- ・国際性を兼ね備えた自動車整備士の育成

3 評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目的・人材育成像

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・教育理念・校訓は定められているか	④	3	2	1
・教育理念・校訓は周知徹底・実践されているか	④	3	2	1
・具体的な教育目標・方針は定められているか	④	3	2	1
・具体的な教育目標・方針は周知徹底・実践されているか	④	3	2	1
・具体的なスローガンは定められているか	④	3	2	1
・具体的なスローガンは周知徹底・実践されているか	④	3	2	1
・具体的な育成人材像は定められているか	④	3	2	1
・具体的な育成人材像は周知徹底・実践されているか	④	3	2	1

①学校の基本的な考え方および現状

校訓は学校法人第一原田学園全体の校訓であり、自動車整備士養成機関のみならず教育機関として相応しいものであると考えている。校訓・教育目標・育成人材像・スローガン等は学校案内に明記、そして教室にも掲示している。また入学後すぐに実施される新入生ガイダンスでは生活の心得に沿って説明・解説すると共に生活習慣、マナー、規範教育等の周知徹底を行っている。教育目標の第一は一級・二級自動車整備士国家資格の100%合格である。その基礎となる基礎学力(計算能力)の指導を徹底し、入学後基礎学力テストを実施し補習授業で学力補填を行っている。在学中の取得目標資格の指導も放課後無償で補習指導を実施している。1年次には担任による社会学の授業を通じ、社会人としての整備士に必要な基礎的な心構え、また販売理論の授業において業界知識とマネージメントの基礎を教育している。そして全国自動車大学校・整備専門学校協会(JAMCA)のソーシャル検定を全員受験することで既得知識の確認も出来る。全員必須の英会話授業、そして2年次のハワイ研修旅行への参加により国際性の涵養に取り組んでいる。

時代の変化に対応できる自動車整備士に関しては、自動車の電子化、100年に一度の変革期を迎え、今後国家一級自動車整備士の育成がますます重視されると考えている。

学生満足度向上を達成すべく個々の学生の把握については入学後すぐに実施する担任との二者面談、新入生ガイダンスにおける性格適性検査、HYPER QUIにより性格理解をはかっている。

保護者の信頼度向上のため1年次の保護者参観日、また毎年10月には学校開放ウィークを設け、普段の校内での授業状況を見学していただくようにしている。

②今後の課題・改善点

第一の教育目標である自動車整備士登録試験100%合格について二級国家試験では令和6年度は100%合格を逃したが、22年連続100%合格を達成している。一級に関しては26年度～29年度の4年間100%を逃したが、平成30年度に再度指導体制の見直し、平成31、令和2・3年3月と3年連続で100%合格が達成出来た。しかし、それ以降の4年間の試験では惜しくも100%合格を逃したが、令和6年度は54名受験52名合格と合格率96.3%とほぼ100%合格に近い合格率を達成することが出来た。

就職状況も売り手市場と言うことも有り、近年では希望就職先にほぼ全員が就職出来ている状態である。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・学則は適切に定められているか	④	3	2	1
・学則は周知徹底されているか	④	3	2	1
・年間事業計画は定められているか	④	3	2	1
・中長期計画は定められているか	④	3	2	1
・校務分掌・意思決定システムは適切に定められているか	④	3	2	1
・校務分掌・意志決定システム効果的に機能しているか	4	③	2	1
・教職員の情報伝達・意思疎通はなされているか	4	③	2	1
・教職員の協調性は十分か	④	3	2	1
・各業務の効率化は図られているか	4	③	2	1
・学校の特徴を把握しているか	④	3	2	1
・特色ある学校運営に取り組んでいるか	④	3	2	1

① 学校の基本的な考え方および現状

学則は適切な内容であることを確認し、必要があれば内容を変更し届け出をしている。また微調整が必要な部分が生じ、細則で対応できる範囲ならば細則を変更し適切なものとなるよう努めている。生活の心得を教職員、全校生徒に配布している。新入生ガイダンスでは学則の説明を徹底して行っている。意志決定は校務分掌に従って行われている。教職員の情報伝達・意思疎通は毎朝の職員朝礼、前期・後期の境目での職員会議で行っている。また協議事項が生じたとき、必要に応じ全体職員会議を実施し問題の解決に当たっている。本校の特色は少人数制によるきめ細やかな指導が基礎であると考え、全教職員がクラス・学年の枠を越え全学生を把握出来るよう情報共有につとめている。また学校法人の特色として姉妹校のおかやま山陽高校と3カ年、5カ年、7カ年で三級・二級・一級自動車整備士を養成することを前提に、生徒・学生募集を行うことを共通認識としている。また本校では学生の約9割が地元の自宅通学圏学生であり、卒業後も学校を頻りに訪問してくれ卒業後の業界情報、要望を学校教育に反映しやすいことも特色としてあげられる。今後の中長期計画としては一級自動車整備士のニーズがますます高まることより、一級募集をさらに強化し、増員を図っていききたい。留学生は今後も受け入れない方針で学校運営をしていく予定である。一級自動車整備科の板金塗装実習、卒業作品としてのカスタムペイントカー作成も本校独自の付加価値教育として今後も継続していく。国際性の涵養のため開校時より2年時には海外研修旅行を実施している。入試においてAO、総合選抜入試を導入しておらず、今後も継続していききたい。

② 今後の課題・改善点

学校が持続するためには一級自動車整備士の増員が不可欠である。学生募集がますます厳しくなる中、中学生・そして高校生へ一級自動車整備士資格の有用性を分かりやすく説明していく工夫が求められる。令和元年9月には高等教育支援制度の要件を満たす教育機関に認定されたが、その要件の一つに学則定員に対する充足率があり、要件から漏れないよう一級・二級の学生比率を構成していくことも課題である。また今後益々18歳人口の減少が加速することが見込まれており、計画的に組織構成のダウン・サイジングも必要となる。教員数、一級、二級の学生数、総定員を高校生の進路動向、整備業界の動向双方考慮し、中・長期的計画を決定していききたい。

(3)教育活動

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1
・各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界のニーズに向け正しく方向付けられているか	④ 3 2 1
・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	④ 3 2 1
・カリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・各科目は、カリキュラムの中で適正に位置づけられているか	④ 3 2 1
・各科目・教科の目的・目標は定められているか	④ 3 2 1
・キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育が実施されているか	④ 3 2 1
・教員による授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
・学生による授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
・育成目標に向け授業を行うことができる教員を確保しているか	④ 3 2 1
・教員のスキルアップは図られているか	4 ③ 2 1
・教員研修は十分に実施されているか	4 ③ 2 1
・成績評価の基準は明確化されているか	④ 3 2 1
・履修時間数管理は適切にされているか	④ 3 2 1
・資格取得の指導体制は整っているか	④ 3 2 1
・成績不良の学生支援は適切になされているか	④ 3 2 1

①学校の基本的な考え方および現状

カリキュラムは国土交通省一種養成施設基準に沿った内容である。その中で本校独自に工夫して、より教育目標・育成人材像に近づくよう適切に方向付け編成していく。
 1年終了時には二級自動車整備士知識修得へ関連づけられる、三級自動車整備士程度の知識の獲得、
 2年終了時には二級自動車整備士国家試験合格及び相応の技術力習得を第一の目標とする。
 教員の研修については全国自動車大学校・整備専門学校協会の研修等可能な限り参加している。
 教員同士での研究授業も重要であり実施していきたい。
 時間数管理は5分刻みで行っており、履修時間不足が発生した場合は有償で補習を実施している。
 成績は優80点以上、良79～70点、可69～60点、以下不可となっているが、一級自動車整備科の学生に関しては80点以下で無償の再試験を実施している。
 成績不良の学生は放課後、夏期休業、秋期休業等を利用し無償で補習を実施している。
 平成29年度より2年生の前期終了時に岡自大校内実技検定(作業・技術能力確認テスト)を実施し筆記試験のみならず体系的な実技試験(検定)も実施している。
 資格要件を備えた教員が常勤として11名在籍しておりそのうち9名が一級自動車整備士の資格を有している。

②今後の課題・改善点

卒業生来校時のアンケートによると現場のニーズと学校での実際の実習に若干のずれが感じられるが、一種養成施設の性質上、資格取得を第一目的に置いたため現場作業とのずれが生じるのも仕方がない面もある。ただできる限り即戦力になれるよう卒業生の声を取り入れ学校教育に還元していきたい。
 以前は夏期休業を利用し研究授業を頻繁に行っていたが現在は資格取得指導・補習等で実施出来ていない。
 新任教員採用時には教員研修として研究授業を実施し、教員による評価を行っているが、2年目以降の教員にも適宜研究授業を実施し、教員のスキルアップを図っていく必要がある。
 また全国自動車大学校・整備専門学校協会主催の教員研修にも可能な限り参加していく。

(4)教育成果

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・一級小型自動車整備士の合格率	④	3	2	1
・二級ガソリン自動車整備士の合格率	④	3	2	1
・二級ジーゼル自動車整備士の合格率	④	3	2	1
・二級二輪自動車整備士の合格率	4	3	②	1
・その他各種資格の合格率	4	③	2	1
・関連業界への就職率	④	3	2	1
・各資格合格率の向上が図られているか	④	3	2	1
・関連業界就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・退学率低減が図られているか	④	3	2	1
・退学率低減への具体策はあるか	4	③	2	1
・卒業生の社会的活躍を把握しているか	4	③	2	1
・卒業生からの学校評価を把握しているか	4	③	2	1

①学校の基本的な考え方

就職においては関連業界への就職100%がキープできている。二級自動車整備士登録試験においては22年連続で100%合格を達成している。一級は平成30年度より3年連続で100%合格を達成し、また令和3年、4年、5年、6年度は100%を逃したが、一級課程開設以降、平均合格率が87.4%と高い合格率を維持している。進路担当による年一回の定期企業訪問を実施し、過去5年間の卒業生の就業状況を確認している。さらに毎年1月に実施される合同企業説明会では、各社の人事担当よりヒヤリング調査を実施し卒業生の現状把握に努めている。本校では一級自動車整備科のみならず二級自動車整備科でも全員に内定先でのインターンを実施している。その報告日誌で学生の企業先での状況・評価を在学中に把握し指導することで、卒業後に反省点を生かしよりよい就業評価が得られる事を期待している。卒業生による学校評価に関しては地元出身の学生が多いことの強みを生かし、来校した卒業生に対しての学校評価のアンケートを実施している。退学率低減については参観日、学校開放ウィーク、12月の保護者懇談、また必要に応じての懇談を実施し保護者と学校との情報共有をできる限り緊密にし、未然に退学を防ぐ努力をしている。学生募集の高等学校訪問時にも本人の同意を得た上で成績・生活態度等全般にわたり在学生の状況を出身校進路課等へ積極的に伝え、情報交換することにより退学者軽減に繋がると考える。

②今後の課題・改善点および現状

今後は一級・二級ともに、100%合格が標準になるよう引き続き努力が必要である。就職に関しては整備士不足により今後も慢性的な売り手市場となりそうであるが、時代の変化にかかわらず学生の社会人教育、キャリア教育を強化していきたい。留年、退学率、0%を目標に今後も学生に対してのきめ細やかなケア、保護者との連携を実施していく。年々学生の価値観や退学理由の多様化が見受けられるが、今後もHYPER QUテストやSPI等学生の特性把握のためのツールを積極的に活用していきたい。

(5) 学生支援及び保護者との連携

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学業指導体制は整備されているか	④	3	2	1
・就職指導体制は整備されているか	④	3	2	1
・個人的適応指導は整備されているか	④	3	2	1
・社会性指導は整備されているか	④	3	2	1
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生寮は整備されているか	4	③	2	1
・学生食堂は整備されているか	4	3	②	1
・保護者とは適切に連携しているか	4	③	2	1

①学校の基本的な考え方および現状

学業、私生活、進路全てが学生指導の重要項目である。学生がそれらについて気兼ねなく相談できる環境が必要である。学習成果を上げるためにも学生の個人的適応指導、社会性指導は重要視している。これら全ての基礎となるのは学生が心身共に健康であることが最も重要である。また校医が勤務する鴨方第一内科クリニックは本校より徒歩5分の位置にあり何かあったとき迅速に対応してもらえる体制を整えている。

学生の経済的支援に関しては日本学生支援機構の奨学金を利用している。本校独自の奨学金としては、人物・成績共に優秀な者への特別奨学金授与、兄弟入学生への奨学金授与、また通学困難で入寮する学生には学費の一部を免除する寮生特待生制度がある。令和元年には高等教育支援制度の要件も満たした。保護者との連携は保護者参観日、学校開放ウィーク、12月の保護者懇談を実施している。これらの行事を通じ本校スローガンである学校への「保護者信頼度向上」の達成を目指している。

平成29年度より新入生にHYPER QUテストを実施し、客観的に学生の学級内での立場や心理状況などを把握出来るよう取り組んでいる。

社会性指導についてはJAMCAソーシャル検定の受験に備え、全学生が放課後の特別事前指導によって学習している。また進路指導の授業だけでなく、日々の学生生活の中でマナーや挨拶の指導は積極的に行っている。学業指導については教育活動項目を参照していただきたい。

学生食堂は、小規模運営およびコロナ禍での衛生管理の困難さ故、令和2年より食堂での提供は中止し、希望する学生は昼食宅配業者から購入している。

②今後の課題・改善点

学生・保護者からの要望ニーズに合わせ今後もスローガン達成のために取り組んでいきたい。また学生一人一人の個性・能力を分析した上でそれらに適合した指導を心がけていきたい。

学生寮はワンルームタイプの個人部屋を25,000円の家賃で提供しているが、築30年になり老朽化が目立つようになってきた。学生の要望や必要に応じてリフォーム等に取り組んでいく必要がある。

ただ令和4年(2022年)から成人年齢引き下げにより保護者という言葉が適用できなくなった。制度とは別に、各家庭からの要望には対応していきたい。

(6)教育環境

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・施設・設備は、教育上十分に整備されているか	④	3	2	1
・女子学生に対する設備は整備されているか	4	③	2	1
・学校行事を通じ学生間の交流が図られているか	4	③	2	1
・課外活動・海外研修等の体制は整備されているか	4	③	2	1
・インターンシップ制度は整備されているか	④	3	2	1
・校内は清潔に保たれているか	④	3	2	1
・安全管理は適切になされているか	④	3	2	1
・防災体制は整備されているか	④	3	2	1
・通学の利便性に配慮出来ているか	④	3	2	1
・学生の健康維持のための施設・設備はあるか	④	3	2	1

①学校の基本的な考え方および現状

施設設備の充実は教育上非常に重要であると考え、一種養成施設の設置基準以上の環境を常に意識して環境整備につとめている。上記項目についてはおおむね適切な施設設備である。
実習車両は国交省基準の3倍の台数を保有し、平成29年度にはシャシダイナモーター、外部診断機の増設など新たに必要となる設備を導入した。女子学生には専用更衣室がありドレスサーも完備している。全校行事としては年二回の球技大会を実施し前期はソフトボール、バレーボール大会、後期はボーリング大会を実施し学生間交流に努めている。課外活動はクラブカーズがありいつでも希望する学生は参加できる環境にある。通学については電車、自動車、オートバイいずれの手段でも通学可能となっている。
学生健康維持のためにトレーニングルームを完備している。
平成29年度学校創立30周年記念事業として上記最新式シャシダイナモーターを設置した他、学生・教員の健康面に配慮し黒板を撤去し、全てホワイトボードにすることによってチョークの使用を廃止した。
また学習効率化のため全教室にプロジェクターを導入した。特定整備制度のスタートに併せエーミングサポートツール、専用車両等の導入も計画通り整備した。令和6年11月には新たにEV専用実習棟が完成した。

(3)～(6)に関して卒業生の感想をフィードバックするため卒業生が来校時に全員に学校評価アンケートを実施している。

②今後の課題・改善点

適宜必要な物は整備していく。しかし、今後益々自動車技術の進歩が早まることや、少子化で学生数が減少し収入が減ると予測されるなか、コストがかかる設備整備には慎重に対応していきたい。
国土交通省の自動車整備士資格見直しにより、教科書等が刷新される予定である。新たな教育に必用となる教育装置については早めに導入をしていく予定である。

(7) 学生募集・受入・入試制度

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・学生募集は適正に行われているか	④	3	2	1
・学生募集において学校の現状は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・入学選考は適正かつ公平な基準に基づいて行われているか	④	3	2	1
・授業料等納付金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・費用面について正確に伝えられているか	④	3	2	1

①学校の基本的な考え方

教職員による高等学校訪問、体験入学、広報業者媒体、広報業者主催の説明会・資料請求システム、公式HPでの情報提供・情報開示・資料請求が学生募集活動の中心となっている。また高校訪問時には学生本人の承諾を得た上で、高等学校へ在学状況をできるだけ詳細に報告するようにしている。
入学ミスマッチを防ぐため、学生募集・及び入試制度は重要な位置にあると考える。
本校ではAO入試は実施しておらず、基礎的な学力適性検査、そして面接を実施し合否を判定している。
学生募集においては本校をより深く理解してもらうため、出来る限りの情報は伝えるようにしている。
費用面は妥当であると考え、また授業料以外の必要経費についても正確に伝えている。
岡山自動車大学校の学生募集は透明性と高等学校の視点にたっとうあるべきかを重要視している。
留学生の受け入れに関しては引き続き検討事項とする。

②今後の課題・改善点

少子化のため今後益々学生募集にはコストがかかるが、公正な学生募集・入試を実施していきたい。
若者の車離れが益々深刻になっている現在、自動車整備士の重要性をさらに告知していきたい。
留学生を受け入れるか否かの判断が今後は問われる。
おかやま山陽高等学校オープンキャンパスとのコラボ企画は好評であったため今後も内容を充実させ継続していきたい。

(8) 財務

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・中長期的に財務基盤は安定しているか	④	3	2	1
・予算・収支計画は妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・会計監査がきちんとなされているか	④	3	2	1
・財務情報公開は適正にされているか	④	3	2	1

①学校の基本的な考え方および現状

財務状況は安定しており、学校法人で適切な会計監査を受けている。

②今後の課題・改善点

引き続き安定かつ健在な財務状況を維持していくこと。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善につとめているか	④	3	2	1
・自己点検・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①学校の基本的な考え方および現状

国土交通省の指導に従い適切であるとする。
個人情報保護にも細心の注意を払っている。
平成28年度には文部科学省の委託事業として試験的に第三者評価を受審し、良好な評価を得られた。

②今後の課題・改善点

法令は変化するので対応出来るよう情報収集を怠らない。

(10) 社会貢献

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1

①学校の基本的な考え方および現状

校外実習場を労働基準協会の講習用に貸し出しており、地域への貢献になっている。
授業時間数が過密なため積極的にボランティア活動参加への支援はしていない。
休日等を利用しての活動に関しては自主性に任せている。
学校全体では献血活動を毎年実施している。

②今後の課題・改善点

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合的にはおおむね良好であると自己評価する。細かな問題や改善点にも注目し、真摯に受け入れ、それら一つ一つを解決していく上でよりよい教育機関を目指していきたい。
中長期的には少子化による学生募集環境の悪化が最大の懸念事項であるが、現在と同様透明性の高い学生募集を基本とした上で、教育の質保証、教育環境整備を最優先にして対処していきたい。現在本校では留学生の受入はしておらず、当面は現状維持を考えているが、今後の状況次第では選択肢の一つにもなり得る。
今後も経営バランスシートを考慮し自動車整備の現状を踏まえ、時代のニーズに合った整備士を育成していくため随時新たな設備・機器等を積極的に導入していきたい。
岡山自動車大学校の社会的責任は、より高度な教育を受けた自動車整備士を社会に送り出し社会に貢献することである。同時に自動車整備士の社会的地位向上にも貢献していきたいと考える。
全国自動車大学校整備専門学校協会の共通認識でもある、「国民の安全と生命を守るのが自動車整備士の使命である」という概念を広く社会一般の共通認識として流布していきたい。